

## 南予地域柑橘農業復興対策チーム第11回会議の内容

令和元年10月10日(木)10:30～  
南予地方局7階大会議室

### 1 短期的復旧対策について

#### (1) 災害復旧状況の確認

##### ○JAえひめ南 (P3～4)

被災したモノレールを農家自らが修繕した箇所の安全点検を9月20日から10月4日にかけて、1日あたり4園地、計29園地(21戸)で実施。園主の立会いの下、支柱の取り付け位置の確認等を行った。大半は問題なかったが一部に支柱のぐらつきがあり、業者から園主に修繕のアドバイスを行った。なお、修繕については各園主で行っていただくこととしている。

##### ○柑橘被害・復旧状況について (P5～10) について県から報告

農地復旧は農地・農業用施設災害復旧事業を中心に、現在、工事の発注作業を進めているところ。園地の土砂撤去や小規模な原形復旧など軽微な復旧について、市の単独事業で対応しており、宇和島市では対象595箇所に対して現在238箇所が完了している。

モノレールの復旧状況は、宇和島市88%、八幡浜市87%、西予市98%とどの市も園地崩落箇所以外、一部を除きほぼ復旧している状況。

自動化スプリンクラーの復旧は、9月30日時点で吉田町が90%、八西地区96%、西予市95%であり、吉田町の南予用水畑地用水灌漑施設の復旧は、県営幹線水路は全て配水槽まで通水可能となっている。なお、7月に法華津の1ブロックが稼働となり、全てのブロックで灌水や防除が可能となっている

#### (2) 令和元年産の温州みかんの生育状況及び生産見込み、出荷計画等

##### ○JAえひめ南

本年産の温州みかん生産予想は、極早生から晩生までで19,336t、前年比98%。市場出荷量計画は13,333t、前年比99%。前々年比の110%。

生育状況では、着色は例年と比べて4日程度遅れており高温の影響があったと推測。果実の肥大状況は、極早生で例年並み、早生以降はばらつきがあるものの、平年よりはややよい。

8月中旬以降の曇天と日照不足の影響もあって糖度、酸度ともに例年よりやや低い水準で推移している。早生、中生(南柑20号)になるほど糖度の回復も見込まれると予想。

現在、日南1号(極早生)を販売しているが、昨日(10/9)時点の累計で10kg箱2,500円。日計で2,400円。10月31日には大田市場で早生みかんのトップセールスを行う予定。

##### ○JAひがしうわ

販売状況は2,190tを計画。生育状況はJAえひめ南とほぼ変わらない。今年の極早生は味がやや落ちる。糖度、酸度も平年と比べやや低め。今後、天候の回復を期待したい。

## 2 中・長期対策について

### (1) 園地復旧について

#### ①事業進捗状況と今後のスケジュール

#### (ア) 農地・農業用施設災害復旧事業(P13~15)

##### ○宇和島市

測量設計はほぼ発注済み。入札不調は1件。今後、関係者へのヒアリングなど意向調査を行い、業者が幅広く参加できるように発注ロット数を調整しながら迅速に進め、年度内の発注を目指したい。

##### ○県（農村整備課）

県営幹線水路のポンプ2基は本復旧が完了。スプリンクラー自動化施設は園内幹支水路の仮復旧は完了し、今後、本復旧に取りかかる。園内幹支線水路やスプリンクラーは39ブロックのうち、36ブロックの本復旧を予定しており、現在、測量設計を実施中。園地復旧と併せて令和2年度末の工事完成を目指している。入札不調を懸念しており、発注ロット等を検討している。

##### ○西予市

成果品があがったものから発注。入札不調等も発生していることから、まとまった農地は一括して発注。工事発注は本年度末には終わらせるよう計画を立て進めているところ。

##### ○県（農村整備課）

吉田町と同様に明浜町も南予用水のスプリンクラー自動化施設の復旧は、県が市から受託しており工事の発注は完了している。なお、スプリンクラーの復旧は農地復旧後の工事になるため、農地復旧工事との工程調整が必要と考えている。

### (イ) 柑橘園地の復旧・復興について(P16~18)

##### ○県（農村整備課）

吉田町農地復旧モデル計画策定事業について、深浦地区は現在、測量設計を実施中。

法華津地区と白浦地区は両地区を合わせて玉津地区として事業計画を策定中。来年度、事業着手を予定している。

小名地区、河内地区は改良復旧で合意。

沖村地区は原型復旧で現在、測量設計中。

白井谷地区は周辺地域を含めて検討会を行っており、再編復旧に向けた地域の取組みを引き続きサポートすることとしている。

玉津地区の再編復旧は、農地中間管理機構関連農地整備事業を導入して整備。6.8haの区画整理工事で急傾斜樹園地を緩傾斜化し、農道や園内作業道を整備して収益性の高い園地を造成。令和2年度に測量設計を行い令和3年度から工事着手。最短で令和7年度に換地処分をして事業完了となる見込み。

### (2) 生業支援について

#### ①営農支援班の設置(P20)

##### ○県（地域農業育成室）

南予地域柑橘農業復興対策チームの下にJAえひめ南、宇和島市、地方局の実務担当者、計

12名をメンバーとした営農支援班を8月に設置。柑橘農業の復興対策として、再編復旧及び未収益期間の生業支援や労働力の補完対策、柑橘復興推進事業の推進などについて、取組み状況や課題、関係機関の具体的な役割などについて協議している。今後とも、共通認識を持ちながらスケジュール管理を徹底しながら復興対策に取り組んでいく。

## ②代替園地の掘り起こしと希望農家への斡旋

### ○JAえひめ南

園地を借りたい方、貸したい方について、宇和島市吉田町の柑橘農家にアンケート調査を実施。その結果、耕作希望者が8人で2.6ha、園地の貸し出し及び売却希望者は8人で3.1haであった。今後、行政と相談しながらマッチングを進めていくこととしている。

## ③早期成園化を可能とする栽培技術の確立について

### ○JAえひめ南

国の補助事業を利用して根域制限高畝マルチ栽培の実証を行うこととしている。事業実施主体は産地協議会、事務局はJA、管理団体は玉津柑橘倶楽部。設置場所は吉田町法華津の玉津選果場前の平坦地で圃場面積は16a、品種は南柑20号(温州みかん)。今月末に事業計画の申請を行うこととしている。

来年春の苗木の注文を集計中。例年8万本くらいの苗木が動いている。大苗は、JAとしての取組みが難しいことから県単事業を活用しながら生産者による育苗を検討していきたい。

## ④紅プリンセスの産地化について

### ○県（地域農業育成室）

玉津地区再編整備に係る営農部会等において紅プリンセスの導入を働きかけている。

新たな育成種であるため、現在のところ生産現場での特性や栽培管理について十分示されていないことから導入に不安をもつ農業者も多い。今後はみかん研究所と連携しながら、玉津柑橘倶楽部の若手農業者を中心として、導入を啓発していく。玉津地区にあるみかん研究所で育成された紅プリンセスが復興のシンボルとして産地化され、柑橘農業の活性化につながるよう取り組んでいきたい。

また、果樹産地構造改革計画の見直しにおいて新たな品目として位置づけし、産地化を推進していく。

## ⑤収穫作業等を補完する労働力確保対策(P21)

### ○JAえひめ南

アルバイトを確保するため、アグリナビやマイナビなど全国規模の専用サイトへの掲載や県内の大学に募集をかけているところ。現在は25名が参加しており、この後の参加者も含め40名は確保している。収穫最盛期となる11月、12月には50人以上のアルバイトを確保したい。宿泊施設が不足しており、別の宿泊施設を確保するとともに農家の空き家等も利用しながら対応していきたい。

### ○JAひがしうわ

元々アルバイトを利用していなかった地域。モノレールも復旧していることから、農家から災害に関係する求人はほぼ要望がない。

### ○JAえひめ南

ボランティアのネットワークを活用しながら積極的に募集をかけたい。個人的に農家さんが雇い入れをしているケースもある。

今回、新たに有償ボランティア制度を創設した。昨年以降、収穫作業等に係るアルバイトとボランティアの棲み分けに問題があったことから、経費の一部を農家負担してもらうボランティア(「宇和島お手伝いプロジェクト」)制度を立ち上げた。

10月1日に宇和島お手伝いプロジェクト運営協議会の設立総会を開催。10月中旬からお手伝いプロジェクトを開始する予定。農家は宇和島お手伝いプロジェクト協議会に登録し、作業を依頼し、ボランティア希望者はワーカー登録してもらい、協議会においてマッチングする。

農家はボランティアの時間に応じて負担金を支払う(時給800円)。ボランティア参加者には、宇和島市内で利用できるクーポン券を配布する。既に八幡浜市、大洲市で当取組みを行っていることから、助言をいただきながら宇和島版のプロジェクト協議会を推進していきたい。

### ○宇和島市

みかんサポーター確保支援事業を創設。JAえひめ南が実施する被災柑橘農家の園地での収穫や運搬、土嚢づくりに必要な労働力を確保するため、アルバイト、ボランティアの宿泊費と交通費の一部を助成する。宿泊については、1泊上限1,500円又は個人負担分を除いた金額の半分以上をJAと市で折半する。また、JAえひめ南経由で宿泊施設の家賃の1/3を助成する。交通費として松山、宇和島間のボランティアバスの往復使用料の1/2を助成。

### ○西予市

市単独事業はないが、アルバイト、ボランティア、コーディネーター等、明浜支所で情報共有していることから、農家から要望があれば支援ができるような事業を検討する。

## ⑥農作業受託組織の体制づくり

### ○JAえひめ南

各地区の同志会が母体となった農作業受託組織の設立を検討していく。12月に南予果樹同志会の役員会において提案し、受託組織の設立を目指したい。

## 3 その他

・令和2年度国補事業について(P23~24)

### ○中国四国農政局

果樹農業生産力増強総合対策として59億円を要求。従来の果樹農業好循環形成総合対策事業の後継事業。大きく変わったところは、省力樹形の導入に支援すること。果樹は水稻など他の作物と比べると10aあたりの作業時間が圧倒的に多いという課題がある。果実は年々、減産傾向にあり、抜本的に向上させて生産力を増強させていかないといけない。そのためには労働生産性を向上させていくという考えを柱に作業を省力化、効率化して同じ労働力、同じ時間で多くの収量、収益を確保していく取組みを支援し、省力樹形の導入を積極的に進めていくこと

としている。樹間を狭く、樹高、枝の広がりコンパクトにして小さな樹を多く直線的に配列して栽培するイメージで予算を組み立てているところ。優良品種への改植等に係る経費について慣行栽培で柑橘 23 万円はこれまでと変わらないが、省力樹形栽培を取り込む場合、10a あたり 110 万円という単価を設定して支援する。未収益期間はこれまでと同様に 5 万 5 千円(年)を支援。これに加え、新植も重点的にやっていく考で単価として 21 万円を設けている。放任園地の発生防止対策は山林に戻す考えで放任園発生防止の取組みを支援する。

未来型果樹農業等推進条件整備は新規事業で 8 億円要求。こちらは労働生産性を上げる柱のもとで、モデル的な取組みを支援。ある程度まとまった面積で取組みを行うところを対象。新産地育成型は、水田に果樹を植えるときに水田の基盤整備、新植、機械の導入支援を想定してパッケージ化していこうと考えている。既存産地改良型は、基盤整備の際に収入が途絶えてしまうことで営農継続に不安が生じ基盤整備に踏み切れないことが課題として挙げられており、工事期間中の未収益期間に大苗育苗をしたり、代替園地で野菜を生産したり、基盤整備ができた後にスマート農業の技術習得などに係る費用について最大 15 万円/10a を支給することとし、大規模な基盤整備に対しては 5 年分まとめて支払う予定。概算要求段階なので内容が変わることもあるが、使いやすい支援策となるよう進めている。

#### ・令和元年度9月補正予算(県)について(P25)

##### ○みかん研究所

果樹園災害復興支援技術開発事業について、大きな柱は 3 つ。1 点目は復旧した園地の早期成園化等を後押しする技術開発で、花き研究所、みかん研究所、農林水産研究所及び愛媛大学イノベーションセンターで令和 3 年度まで実施する予定。被災園地において土砂を撤去した後のやせた土地を対象に土壌改良等を行うとともに、大苗育成した後の苗の運搬から植え付けまでの作業軽量化を図るため、軽量培土等の配合等を検討して、現場へマニュアル化する。

2 点目は、省力化や高品質化を実現する先進経営モデルの確立を目指し、園内作業道の設置による作業効率化や機械化体系の検討、根域制限栽培の実証による高品質生産技術を検証する。

3 点目は豪雨でも崩れにくい園地に改良する技術の開発。愛媛大学イノベーションセンターの新しい研究シーズを元に現場での検証を考えている。今回被災しなかった園地において現場でモニタリングを行いながら降雨浸透制御が実現可能かを検証することと、排水改良し非破壊探査装置等を使用し現場で調査を重ね暗渠排水やボーリングの最適化の実証を行いたい。

最終目標は早期成園化、省力軽量化、災害に強い園地という 3 本の柱に向けて現場の方と復興に向けた情報共有しながら進めていきたい。

#### ・果樹同志会の活動

##### ○JAえひめ南

県が実施する日本農業遺産継承事業の中のランドスケープの特徴で、石積み研修会を実施。南予果樹同志会から事業提案をして応募。この事業を活用して令和 2 年の 1 月から 2 月にかけて南予地域内 5 箇所で開催研修会を実施。JAにしゅうわ青壮年同志会と連携して事業に取り組む予定。